

関ヶ谷市民の森愛護会

「横浜自然観察の森」見学会のご報告とお知らせ

平成18年2月4日

かねてご連絡していた標記見学会は、2月4日(土)、予定通り実施しました。白く雪に覆われた富士山がま近かに見えるほどの澄んだ冷気の中で、震えながらも目的を果たせました。参加人数は10名、所要時間は5時間の行程でした。

① 炭焼施設の見学

炭焼施設は、「自然観察センター」から上郷「森の家」に向かって山道を数百メートル行った左手にあります。立派な施設で、我々の参考になる「ドラム缶製の窯二基」の他にも、「耐火煉瓦製の大きな本窯」や「木酢液の蒸留施設」なども備え、17年の歴史と実績を誇っています。炭焼事業は、この「自然観察の森」の樹林管理を請け負っている約60名の「雑木林ファンクラブ」というボランティア団体により、間伐材を利用して、冬期にのみ行われるとのことでした。

また、この見学では、臭気を減殺するための「二次燃焼施設」を窯に直結して設置することにより同施設の操作のし易さを確保する代わりに、竹酢液の生成を諦めるかどうかという新たな選択があることを学びました。

② 源氏ホタルの生息地の見学

「自然観察の森」の中央を流れる源氏ホタルの生息地「いたち川」上流の見学は、同森所属のレンジャー・渡邊初恵さんにご案内戴きました。「いたち川」は、いかにも源氏ホタルの生息に相応しい環境で、毎年6月上旬から110頭ほど飛ぶそうです。また、センター近くの人工沼では平家ホタルを育成していますが、ここでは300頭ほどが乱舞するとのこと、羨ましい限りです。ホタルに詳しい渡邊さんからは、ホタルを復活させるには以前どんなホタルが生息していたかを良く調べ、それと同種の復活に徹した方が成功の可能性が大きいとの助言を戴きました。新たな課題です。

更に、渡邊さんから、わが国のホタル研究の第一人者である「大場信義氏（横須賀市自然・人文博物館主任学芸員）」や我々も良く知っている「丸茂高氏（横浜ほたるの会会長）」によるホタルの講演会をご紹介戴きました。詳細は次頁の通りです。「ホタル復活クラブ」の会員の皆さんやご関心の向きは、是非、お出かけ下さい。

「瀬上、ホタルの舞う谷戸の景観」と題する講演会とハイキング

日時： 2006年3月4日（土）

講演会 9時30分～12時

視察ハイキング 13時15分～15時40分

場所： 講演会場 上郷森の家・ホール（栄区上郷町 1499-1）

（神奈中バスで「森の家前」で下車・徒歩5分）

視察ハイキング 円海山緑地といたち川支流周辺

（講演等内容）

1. 報告「瀬上のホタル、その過去・現在・未来」
報告者：横浜ホタルの会会長 丸茂 高氏
2. 報告「栄区ホタルボランティアに参加して」
報告者：栄さとやまもりの会 鍊石 順三氏
3. 講演「谷戸景観とホタルの保全に求められるもの」
講師：横須賀市自然・人文博物館主任学芸員
（わが国ホタル研究の第一人者）大場 信義氏
4. 報告「開発計画の現状と今後の方向性」
報告者：瀬上の森パートナーシップ事務局

（視察ハイキングのコース）

早春の円海山緑地といたち川支流の流域周辺

（参加申込み）

当日受付も可能。出来れば事前にメールか葉書でご連絡を。

メール：segami-ps@hotmail.co.jp

葉書：神奈川県川崎市鶴屋町2-24-2 神奈川県民活動サポートセンターレターケース420

瀬上の森パートナーシップ あて

（注）参加費は無料ですが、主催は「瀬上の森パートナーシップ（SMP）」
と言う名の任意グループによるものです。ただ、渡邊レンジャーも推薦されている通り、講師陣には著名な方々も名を連ねられており、参考になるお話も多々あろうかと思われまますので、ご関心の向きは講演会だけでも参加の価値はあると思われまます。

関ヶ谷愛護会会長 鈴木 勲 （文責：宮本）